

# ビジネス実務教育科目における構成的グループエンカウンター実践報告

A report of Structured Group Encounter on business education classes

杉本 亜由美<sup>1</sup>

<sup>1</sup>金沢学院短期大学現代教養学科

Ayumi Sugimoto<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Liberal Arts, Kanazawa Gakuin College

Sue-machi 10, Kanazawa, Ishikawa 920-1392, Japan

キーワード：ビジネス実務教育，キャリア教育，能動的学習，構成的グループエンカウンター

Key words : Business education classes, Career education, Active learning, Structured Group Encounter

## 抄録

本稿は、企業で上司の業務補佐ができるために必要な能力を身につける、ビジネス実務教育の授業において実施した、構成的グループエンカウンターの実践報告である。

筆者担当のビジネス実務教育授業科目「秘書学Ⅱ」における各授業内で、構成的グループエンカウンターを実施し、その効果を客観的尺度として事前・中間・事後テストの結果、主観的尺度として事前・中間・事後アンケートの結果を数値化して測定したところ、ビジネス実務教育の授業における構成的グループエンカウンターには一定の効果が見られることが示唆された。

また、構成的グループエンカウンター実践にあたり、実施クラスの人数【Aクラス（38名）、Bクラス（30名）、Cクラス（22名）】は、その効果に相関があるかについても分析を試みたが、実施するクラスの人数による、明らかな相関性は見られなかった。

## 1. はじめに

2012（平成24）年の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的変換に向けて～生涯学び続け、主観的に考える力を育成する大学へ～」<sup>[1]</sup>には、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」とあり、高等教育機関における教育の質的変換、言い換えれば、授業における教育方法の質的変換、いわゆる高等教育機関における授業のアクティブ・ラーニング化が求められて久しい。この方向性は、高等教育機関におけるキャリア教育やビジネス実務教育にも、当然のことながら当てはまる。

しかしながら、日本ビジネス実務学会平成26年度教育技法受託研究報告書「学生の学びを深める学習法の研究（2）～TBL（チーム基盤型学習法）

を活用したビジネス実務教育における学習法～」<sup>[2]</sup>の調査結果によれば、「①ビジネス実務授業のアクティブ・ラーニング化は、進んでいるとは言えない、②ビジネス実務授業のアクティブ・ラーニング化は、学生の主体性、発信力、傾聴力向上に効果がある、③その一方で、ビジネス実務授業のアクティブ・ラーニング化の実現には、多くの困難を伴うと認識している教員が多く存在している（逆に言えば、敷居の低いアクティブ・ラーニング化手法が強く求められている）」と、高等教育機関における授業のアクティブ・ラーニング化がスムーズに進んでいないことを示唆している。

また、上記3点を踏まえ、所<sup>[3]</sup>は、1983年に教育心理学者ジョン・ケラーが提唱した学習意欲向上モデルである、「ARCS 動機づけモデル」に基づいて、1970年代後半にラリー・マイケルセンによって開発された、「チーム基盤型学習法（Term Based Learning : TBL）」を授業に導入し、その効果を実証している。

以上をもとに、本稿では、筆者担当のビジネス

実務教育に関連する授業「秘書学Ⅱ」において、主に心理的な領域において高い効果を生んでいる、構成的グループエンカウンター (Structured Group Encounter, 以下 SGE とする) を導入し、その効果を実証したいと考えている。

## 2. 先行研究

本研究で導入する SGE とは、1970 年代に國分康孝が日本に紹介した教育方法で、その定義は「本音を話し合い互いに認め合う体験」であり、リーダーが準備したプログラムやエクササイズにより討議を行うのが特徴である。これまでに、高等教育機関の授業において SGE を実践し、その効果について論じている先行研究は多数あり、その幾つかを挙げておく。

曾山<sup>[4]</sup>によれば、教職課程科目受講生 178 名を対象に授業内で SGE を実践し、その後、授業満足度を調査した結果、学生は SGE 活用授業に満足していることが示唆された。

また、片岡<sup>[5]</sup>では、自由選択の共通総合演習科目受講学生 18 名を対象に、SGE とピア・カウンセリングを枠組みとした授業を実施したところ、受講後、学生に心理的变化 (前向きな気持ちへの変化) が認められた、としている。

さらに、金山<sup>[6]</sup>は、教員志望の学生 42 名を対象に、開発した SGE 研修プログラムを実施したところ、実施した 42 名の学生は実施しなかった学生 24 名と比べて、SGE に関する自己効力感を向上させていたことを明らかにした。

以上を参考にして、本稿においては、これまで心理学的な要素の強い教育方法である SGE を、ビジネス実務教育に関連する授業内で実践し、その効果を客観的尺度である事前・中間・事後テストと、主観的尺度である事前・中間・事後アンケートにおいて測定することとした。また同時に、SGE 実践にあたり、実施クラスの人数【A クラス (38 名)、B クラス (30 名)、C クラス (22 名)】は、その効果に相関があるかについても分析を試みることにした。

## 3. 調査内容

本研究で実施した調査については、以下のとおりである。

### 3.1 調査概要

15 回の授業内でクラスの受講学生を 4~5 名の

グループに分け、教員がリーダーとなり、教員の指示に従ってエクササイズ (テーマに沿った話し合い、振り返り、自身の意見をまとめる) を実施し、その効果を、事前テスト、アンケート (調査 1)、中間テスト、アンケート (調査 2)、事後テスト、アンケート (調査 3) の結果より測定する。分析方法については、それぞれの事前群-事後群間で差があるか否かについて、対応のある  $t$  検定を施すこととした。

### 3.2 調査科目名

「秘書学Ⅱ」(科目の位置づけは、キャリアアップステージ→ビジネス総合系→秘書学ユニット、到達目標は、企業で上司の業務補佐ができるようになる、としている)

### 3.3 調査対象

ビジネスライフ学科 1, 2 年生のうち、「秘書学Ⅱ」受講学生 111 名

### 3.4 調査時期

調査 1: 10 月 3 日 (水) 実施

調査 2: 11 月 7 日 (水) 実施

調査 3: 1 月 23 日 (水) 実施

### 3.5 授業内容

以下が、15 回の授業における学修到達目標、SGE テーマである。

第 1 回 秘書の資質、ビジネス社会について理解する

SGE テーマ: 秘書としての心構えとは

事前テスト、事前アンケート実施

第 2 回 秘書実務①、企業について理解する

SGE テーマ: 越権行為について考える

第 3 回 秘書実務②、経済の動きと日常生活について理解する

SGE テーマ: 効率的な仕事の進め方とは

第 4 回 秘書実務③、グローバル社会とビジネス、様々な働き方について理解する

SGE テーマ: 挨拶の必要性について考える

第 5 回 秘書実務④、税と社会保険について理解する

SGE テーマ: より良い上司の予定管理とは

第 6 回 秘書実務⑤、現代社会における情報管理について理解する

SGE テーマ: グラフ作成で注意すること

第 7 回 敬語理解 電話応対ロールプレイング演習①

SGE テーマ: 電話応対で注意すべきこと

- 中間テスト、中間アンケート実施  
 第8回 電話応対ロールプレイング演習②  
 SGE テーマ：電話応対について、前回との比較  
 第9回 電話応対ロールプレイング実践③  
 SGE テーマ：電話応対について、前回との比較  
 第10回 正しい言葉遣いを理解する  
 SGE テーマ：敬語は必要かを考える  
 第11回 正しい言葉遣いを身につける  
 SGE テーマ：敬語の重要性について考える  
 第12回 接客について理解する  
 SGE テーマ：ビジネスマナーとは何かを考える  
 第13回 来客応対について理解する  
 SGE テーマ：ビジネスマナーの重要性について考える  
 第14回 実技テスト①  
 SGE テーマ：実技について意見を述べ合う  
 第15回 実技テスト②  
 SGE テーマ：前回実技内容との比較  
 第16回 事後テスト、事後アンケート実施  
 3.6 テスト内容

事前テスト（10月3日実施）・中間テスト（11月7日実施）・期末テスト（1月23日実施）ともに、資質、職務知識、一般知識、マナー・接客、技能の5分野から満遍なく、文部科学省後援秘書検定の過去問題からランダムに抽出したものを出题（各分野20点×5分野＝100点満点）し、3回のテスト問題のレベルは同等とした（表1）。

表1. テスト内容

分野	事前テスト	中間テスト	事後テスト
資質	上司の信頼を得るためには	秘書の人柄について	秘書の心構えとは
職務知識	会議用語	効率的な仕事とは	越権行為
一般知識	上書き	時候の挨拶	ビジネス用語
マナー・接客	お客様への言葉遣い	お客様への言葉遣い	お客様への言葉遣い
技能	急な予定変更時の対応	予定管理	グラフ作成

### 3.7 アンケート内容

事前アンケート（10月3日実施）・中間アンケート（11月7日実施）・事後アンケート（1月23日実施）ともに、秘書学Ⅱの「授業の理解度」「授業に興味を持てたか」「配布資料の理解度」「授業

への集中度」について、「よくできた-4ポイント」「できた-3ポイント」「できなかった-2ポイント」「まったくできなかった-1ポイント」より選択することとした。

「週あたりの学習時間」については、「2時間以上-4ポイント」「1時間以上2時間未満-3ポイント」「0.5時間以上1時間未満-2ポイント」「0.5時間未満-1ポイント」より選択することとした。

### 3.8 実施における工夫

90分の授業時間内に、秘書検定の過去問の解説、テキストを用いた事例研究などを行うため、短時間でSGEを実施しなければならず、工夫を施す必要があった。具体的には、SGE実施における注意点（自身の思いや感じたことをそのまま話し、相手の話は否定せずに受け入れ理解するよう努める等）を事前に説明し、SGEについて理解を促す。また、SGEの進め方において、グループで話し合う課題（テーマ）を、漠然としたものではなく、より具体的な課題（テーマ）として、受講学生が話しやすくなるように心掛けた。

## 4. 結果

調査の結果は以下のとおりである。表2から表9がテスト結果（全体、クラス別）であり、それぞれの平均値、標準偏差、上昇値、事前群-事後群間でt検定を施した結果を記した。表記については、「職務知識」は「職務」、「一般知識」は「一般」、「マナー・接客」は「マナ」とした。

表10から表17がアンケート結果（全体、クラス別）であり、「授業の理解度」「授業に興味を持てたか」「配布資料の理解度」「授業への集中度」について、「よくできた-4ポイント」「できた-3ポイント」「できなかった-2ポイント」「まったくできなかった-1ポイント」、「週あたりの学習時間」について、「2時間以上-4ポイント」「1時間以上2時間未満-3ポイント」「0.5時間以上1時間未満-2ポイント」「0.5時間未満-1ポイント」として、結果をポイント化し、その平均値を記した。また、テスト結果と同様に、事前群-事後群の差と、事前群-事後群間でt検定を施した結果も記した。表記については、「授業の理解度」は「授業理解」、「授業に興味を持てたか」は「授業興味」、「配布資料の理解度」は「資料理解」、「授業への集中度」は「授業集中」、「週あたりの学習時間」は「学習時間」とした。

表 2. 事前, 中間テスト結果 n=90

	事前平均 ① (標準偏差)	中間平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	12.74 (5.51)	14.52 (6.76)	-1.78	-1.91*
職務	1.48 (3.22)	10.38 (7.93)	-8.90	-10.35****
一般	0.31 (1.44)	6.61 (8.36)	-6.30	-7.03****
マナ	11.27 (4.11)	15.06 (4.29)	-3.79	-6.31****
技能	11.63 (5.95)	14.39 (6.74)	-2.76	-3.02****
総合	37.43 (12.71)	60.96 (22.70)	-23.53	-8.96****

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$

表 5. A クラス中間, 事後テスト結果 n=38

	中間平均 ① (標準偏差)	事後平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	12.39 (6.90)	16.89 (4.96)	-4.50	-2.89****
職務	6.92 (7.77)	18.24 (3.24)	-11.32	-7.55****
一般	3.82 (6.43)	15.68 (5.97)	-11.87	-7.97****
マナ	14.00 (4.78)	19.08 (3.08)	-5.08	-5.36****
技能	12.11 (7.04)	15.79 (3.97)	-3.68	-2.77****
総合	49.24 (21.08)	85.68 (15.46)	-36.45	-7.78****

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$

表 3. 中間, 事後テスト結果 n=90

	中間平均 ① (標準偏差)	事後平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	14.52 (6.76)	16.52 (5.34)	-2.00	-2.13**
職務	10.38 (7.93)	17.48 (5.00)	-7.10	-7.03****
一般	6.61 (8.36)	15.91 (5.93)	-9.30	-8.38****
マナ	15.06 (4.29)	18.31 (3.98)	-3.26	-4.83****
技能	14.39 (6.74)	15.47 (4.88)	-1.08	-1.22 n.s.
総合	60.96 (22.70)	83.69 (18.57)	-22.73	-6.89****

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$ ,n.s.非有意

表 6. B クラス事前, 中間テスト結果 n=30

	事前平均 ① (標準偏差)	中間平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	13.20 (5.44)	14.93 (6.69)	-1.73	-0.93 n.s.
職務	1.40 (3.33)	12.10 (7.58)	-10.70	-7.98****
一般	0.70 (2.10)	9.83 (9.44)	-9.13	-4.97****
マナ	10.30 (4.15)	14.93 (4.07)	-4.63	-4.38****
技能	11.87 (5.70)	14.83 (6.77)	-2.97	-1.58 n.s.
総合	37.47 (12.56)	66.63 (22.20)	-29.17	-5.54****

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$ ,n.s.非有意

表 4. A クラス事前, 中間テスト結果 n=38

	事前平均 ① (標準偏差)	中間平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	11.39 (5.69)	12.39 (6.90)	-1.00	-0.70n.s.
職務	1.29 (3.15)	6.92 (7.77)	-5.63	-4.04****
一般	0.18 (1.12)	3.82 (6.43)	-3.63	-3.48****
マナ	11.34 (4.31)	14.00 (4.78)	-2.66	-2.53**
技能	9.50 (6.27)	12.11 (7.04)	-2.61	-1.82*
総合	33.71 (13.09)	49.24 (21.08)	-15.53	-4.09****

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$ ,n.s.非有意

表 7. B クラス中間, 事後テスト結果 n=30

	中間平均 ① (標準偏差)	事後平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	14.93 (6.69)	15.70 (5.85)	-0.77	-0.43 n.s.
職務	12.10 (7.58)	15.60 (6.56)	-3.50	-2.14**
一般	9.83 (9.44)	16.27 (5.46)	-6.43	-3.37****
マナ	14.93 (4.07)	16.87 (5.33)	-1.93	-1.31 n.s.
技能	14.83 (6.77)	14.80 (6.71)	0.03	0.02 n.s.
総合	66.63 (22.20)	79.23 (23.84)	-12.60	-2.13**

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$ ,n.s.非有意

表 8. C クラス事前, 中間テスト結果 n=22

	事前平均 ① (標準偏差)	中間平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	14.45 (4.66)	17.64 (5.07)	-3.18	-2.14***
職務	1.91 (3.12)	14.00 (6.08)	-12.09	-8.66***
一般	0.00 (-)	7.05 (8.07)	-7.05	-4.00***
マナ	12.45 (3.29)	17.05 (2.65)	-4.59	-5.82***
技能	15.00 (3.69)	17.73 (4.19)	-2.73	-2.24***
総合	43.82 (9.26)	73.45 (15.20)	-29.64	-7.79***

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$

表 11. 中間, 事後アンケート結果 n=90

	中間平均 ①	事後平均 ②	差 ①-②	t 値
授業理解	3.18	3.31	-0.13	-0.04 n.s.
授業興味	3.26	3.27	-0.01	
資料理解	3.30	3.37	-0.07	
授業集中	3.09	3.04	0.05	
学習時間	1.77	1.62	0.15	

n.s.非有意

表 9. C クラス中間, 事後テスト結果 n=22

	中間平均 ① (標準偏差)	事後平均 ② (標準偏差)	上昇値 ①-②	t 値
資質	17.64 (5.07)	17.00 (5.11)	0.64	0.36 n.s.
職務	14.00 (6.08)	18.73 (4.24)	-4.73	-2.63***
一般	7.05 (8.07)	15.82 (6.44)	-8.77	-3.39***
マナ	17.05 (2.65)	18.95 (2.29)	-1.91	-2.47***
技能	17.73 (4.19)	15.82 (2.82)	1.91	1.70 n.s.
総合	73.45 (15.20)	86.32 (13.52)	-12.86	-2.38***

\*\*\* $p<.01$ ,\*\* $p<.05$ ,\* $p<.1$ ,n.s.非有意

表 12. A クラス事前, 中間アンケート結果 n=38

	事前平均 ①	中間平均 ②	差 ①-②	t 値
授業理解	3.26	3.05	0.21	0.44 n.s.
授業興味	3.21	3.21	0.00	
資料理解	3.24	3.21	0.03	
授業集中	3.13	3.05	0.08	
学習時間	1.50	1.68	-0.18	

n.s.非有意

表 10. 事前, 中間アンケート結果 n=90

	事前平均 ①	中間平均 ②	差 ①-②	t 値
授業理解	3.19	3.18	0.01	-1.27 n.s.
授業興味	3.26	3.26	0.00	
資料理解	3.22	3.30	-0.08	
授業集中	3.09	3.09	0.00	
学習時間	1.48	1.77	-0.29	

n.s.非有意

表 13. A クラス中間, 事後アンケート結果 n=38

	中間平均 ①	事後平均 ②	差 ①-②	t 値
授業理解	3.05	3.32	-0.27	-0.47 n.s.
授業興味	3.21	3.29	-0.08	
資料理解	3.21	3.42	-0.21	
授業集中	3.05	2.92	0.13	
学習時間	1.68	1.47	0.21	

n.s.非有意

表 14. B クラス事前, 中間アンケート結果 n=30

	事前平 均值①	中間平 均值②	差 ①-②	t 値
授業 理解	3.13	3.23	-0.10	-1.57 n.s.
授業 興味	3.27	3.27	0.00	
資料 理解	3.17	3.43	-0.26	
授業 集中	3.10	3.17	-0.07	
学習 時間	1.05	2.03	-0.98	

n.s.非有意

表 17. C クラス中間, 事後アンケート結果 n=22

	中間平 均值①	事後平 均值②	差 ①-②	t 値
授業 理解	3.32	3.32	0.00	-0.77 n.s.
授業 興味	3.32	3.27	0.05	
資料 理解	3.27	3.27	0.00	
授業 集中	3.14	3.14	0.00	
学習 時間	1.55	1.82	-0.27	

n.s.非有意

表 15. B クラス中間, 事後アンケート結果 n=30

	中間平 均值①	事後平 均值②	差 ①-②	t 値
授業 理解	3.23	3.30	-0.07	1.19 n.s.
授業 興味	3.27	3.23	0.04	
資料 理解	3.43	3.37	0.06	
授業 集中	3.17	3.13	0.04	
学習 時間	2.03	1.67	0.36	

n.s.非有意

表 16. C クラス事前, 中間アンケート結果 n=22

	事前平 均值①	中間平 均值②	差 ①-②	t 値
授業 理解	3.14	3.32	-0.18	-2.40*
授業 興味	3.32	3.32	0.00	
資料 理解	3.27	3.27	0.00	
授業 集中	3.00	3.14	-0.14	
学習 時間	1.41	1.55	-0.14	

\* $p<.1$ 

## 5. 考察

### 5.1 テスト結果の考察【全体】

テスト全体の平均点を見てみると, 事前テストの平均点は 37.43 点, 中間テストの平均点は 60.96 点, 事後テストの平均点は 83.69 点で, 事前テストの平均点よりも中間テストの平均点は 23.53 ポイント上昇し, 中間テストの平均点よりも事後テストの平均点は 22.73 ポイント上昇するという結果であった. 点数のばらつきを表す標準偏差については, 事前テスト 12.71, 中間テスト 22.70, 事後テスト 18.57 と, 事前テストの点数のばらつきが最も小さかった. また, 統計的判断として, 事前群 (事前テスト結果とする) - 事後群 (中間テスト結果とする) 間 (表 2) と, 事前群 (中間テスト結果とする) - 事後群 (事後テスト結果とする) 間 (表 3) で  $t$  検定を施した結果, それぞれに 1%水準で有意差が認められた. さらに, 分野別 (資質, 職務知識, 一般知識, マナー・接遇, 技能) においてそれぞれに施した  $t$  検定結果においても, 中間テストと事後テストの技能以外の分野において有意差が認められた (表 2, 表 3). 以上により, SGE を実践した授業の効果は認められることが示唆される.

### 5.2 テスト結果の考察【クラス別】

次にクラス別の結果についてはどうか. ここでは, 表 4 から表 9 の結果を見て, クラスの人数がテスト結果に及ぼす影響について考えてみたい.

A クラスは 38 名, B クラスは 30 名, C クラスは 22 名であり, 一番人数の多い A クラスの事前テストの平均点は 33.71 点, 中間テストの平均点は 49.24 点, 事後テストの平均点は 85.68 点で, 事

表 18. アンケート結果【全体】

n=90

	事前				中間				事後			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
授業理解	21名 (23.3)	66名 (73.3)	2名 (2.2)	1名 (1.1)	17名 (18.9)	72名 (80.0)	1名 (1.1)	0名 (-)	30名 (33.3)	58名 (64.4)	2名 (2.2)	0名 (-)
授業興味	23名 (25.6)	67名 (74.4)	0名 (-)	0名 (-)	25名 (27.8)	63名 (70.0)	2名 (2.2)	0名 (-)	25名 (27.8)	64名 (71.1)	1名 (1.1)	0名 (-)
資料理解	20名 (22.2)	70名 (77.8)	0名 (-)	0名 (-)	28名 (31.1)	61名 (67.8)	1名 (1.1)	0名 (-)	33名 (36.7)	57名 (63.3)	0名 (-)	0名 (-)
授業集中	11名 (12.2)	76名 (84.4)	3名 (3.3)	0名 (-)	17名 (18.9)	68名 (75.6)	3名 (3.3)	2名 (2.2)	14名 (15.6)	69名 (76.7)	4名 (4.4)	3名 (3.3)
学習時間	0名 (-)	5名 (5.6)	33名 (36.7)	52名 (57.8)	3名 (3.3)	15名 (16.7)	30名 (33.3)	42名 (46.7)	0名 (-)	8名 (8.9)	40名 (44.4)	42名 (46.7)

(%)

表 19. アンケート結果【Aクラス】

n=38

	事前				中間				事後			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
授業理解	10名 (26.3)	28名 (73.7)	0名 (-)	0名 (-)	3名 (7.9)	34名 (89.5)	1名 (2.6)	0名 (-)	13名 (34.2)	24名 (63.2)	1名 (2.6)	0名 (-)
授業興味	8名 (21.1)	30名 (78.9)	0名 (-)	0名 (-)	10名 (26.3)	26名 (68.4)	2名 (5.3)	0名 (-)	12名 (31.6)	25名 (65.8)	1名 (2.6)	0名 (-)
資料理解	9名 (23.7)	29名 (76.3)	0名 (-)	0名 (-)	9名 (23.7)	28名 (73.7)	1名 (2.6)	0名 (-)	16名 (42.1)	22名 (57.1)	0名 (-)	0名 (-)
授業集中	5名 (13.2)	33名 (86.8)	0名 (-)	0名 (-)	4名 (10.5)	32名 (84.2)	2名 (5.3)	0名 (-)	6名 (15.8)	26名 (68.4)	3名 (7.9)	3名 (7.9)
学習時間	0名 (-)	2名 (5.3)	15名 (39.5)	21名 (55.3)	1名 (2.6)	5名 (13.2)	13名 (34.2)	19名 (50.0)	0名 (-)	3名 (7.9)	12名 (31.6)	23名 (60.5)

(%)

表 20. アンケート結果【Bクラス】

n=30

	事前				中間				事後			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
授業理解	7名 (23.3)	23名 (76.7)	0名 (-)	0名 (-)	7名 (23.3)	23名 (76.7)	0名 (-)	0名 (-)	10名 (33.3)	19名 (63.3)	1名 (3.3)	0名 (-)
授業興味	8名 (26.7)	22名 (73.3)	0名 (-)	0名 (-)	8名 (26.7)	22名 (73.3)	0名 (-)	0名 (-)	7名 (23.3)	23名 (76.7)	0名 (-)	0名 (-)
資料理解	13名 (43.3)	17名 (56.7)	0名 (-)	0名 (-)	13名 (43.3)	17名 (56.7)	0名 (-)	0名 (-)	11名 (36.7)	19名 (63.3)	0名 (-)	0名 (-)
授業集中	7名 (23.3)	22名 (73.3)	0名 (-)	1名 (3.3)	7名 (23.3)	22名 (73.3)	0名 (-)	1名 (3.3)	5名 (16.7)	24名 (80.0)	1名 (3.3)	0名 (-)
学習時間	0名 (-)	9名 (30.0)	13名 (43.3)	8名 (26.7)	0名 (-)	9名 (30.0)	13名 (43.3)	8名 (26.7)	0名 (-)	1名 (3.3)	18名 (60.0)	11名 (36.7)

(%)

表 21. アンケート結果【Cクラス】

n=22

	事前				中間				事後			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
授業理解	6名 (27.3)	14名 (63.6)	1名 (4.5)	1名 (4.5)	7名 (31.8)	15名 (68.2)	0名 (-)	0名 (-)	7名 (31.8)	15名 (68.2)	0名 (-)	0名 (-)
授業興味	7名 (31.8)	15名 (68.2)	0名 (-)	0名 (-)	7名 (31.8)	15名 (68.2)	0名 (-)	0名 (-)	6名 (27.3)	16名 (72.7)	0名 (-)	0名 (-)
資料理解	6名 (27.3)	16名 (72.7)	0名 (-)	0名 (-)	6名 (27.3)	16名 (72.7)	0名 (-)	0名 (-)	6名 (27.3)	16名 (72.7)	0名 (-)	0名 (-)
授業集中	2名 (9.1)	18名 (81.5)	2名 (9.1)	0名 (-)	6名 (27.3)	14名 (63.6)	1名 (4.5)	1名 (4.5)	3名 (13.6)	19名 (86.4)	0名 (-)	0名 (-)
学習時間	0名 (-)	1名 (4.5)	7名 (31.8)	14名 (63.6)	2名 (9.1)	1名 (4.5)	4名 (18.2)	15名 (68.2)	0名 (-)	4名 (18.2)	10名 (45.5)	8名 (36.4)

(%)

※表 18 から表 21 : 「よくできた」は①, 「できた」は②, 「できない」は③, 「全くできない」は④, 「学習時間」について「2 時間以上」は①, 「1 時間以上 2 時間未満」は②, 「0.5 時間以上 1 時間未満」は③, 「0.5 時間未満」は④と表記した。

前テストの平均点よりも中間テストの平均点は15.53ポイント上昇し、中間テストの平均点よりも事後テストの平均点は36.45ポイント上昇するという結果であった。点数のばらつきを表す標準偏差については、事前テスト13.09、中間テスト21.08、事後テスト15.46と、事前テストの点数のばらつきが最も小さかった。統計的判断としては、事前群（事前テスト結果とする）－事後群（中間テスト結果とする）間（表4）と、事前群（中間テスト結果とする）－事後群（事後テスト結果とする）間（表5）で $t$ 検定を施した結果、それぞれに1%水準で有意差が認められた。さらに、分野別（資質、職務知識、一般知識、マナー・接遇、技能）においてそれぞれに施した $t$ 検定結果においては、事前テストと中間テストの資質以外の分野において有意差が認められた（表4、表5）。

Bクラスの事前テストの平均点は37.47点、中間テストの平均点は66.63点、事後テストの平均点は79.23点で、事前テストの平均点よりも中間テストの平均点は29.17ポイント上昇し、中間テストの平均点よりも事後テストの平均点は12.60ポイント上昇するという結果であった。点数のばらつきを表す標準偏差については、事前テスト12.56、中間テスト22.20、事後テスト23.84と、Aクラスと同様に、事前テストの点数のばらつきが最も小さかった。統計的判断としては、事前群（事前テスト結果とする）－事後群（中間テスト結果とする）間（表6）と、事前群（中間テスト結果とする）－事後群（事後テスト結果とする）間（表7）で $t$ 検定を施した結果、事前テストと中間テストの間で1%水準、中間テストと事後テストの間では5%水準で有意差が認められた。さらに、分野別（資質、職務知識、一般知識、マナー・接遇、技能）においてそれぞれに施した $t$ 検定結果においては、事前テストと中間テストの資質、技能、中間テストと事後テストの資質、マナー、技能以外の分野において有意差が認められた（表6、表7）。

Cクラスの事前テストの平均点は43.82点、中間テストの平均点は73.45点、事後テストの平均点は86.32点で、事前テストの平均点よりも中間テストの平均点は29.64ポイント上昇し、中間テストの平均点よりも事後テストの平均点は12.86ポイント上昇するという結果であった。点数のばらつきを表す標準偏差については、事前テスト9.26、中間テスト15.20、事後テスト13.52と、Aクラス、

Bクラスと同様に、事前テストの点数のばらつきが最も小さかった。統計的判断としては、事前群（事前テスト結果とする）－事後群（中間テスト結果とする）間（表8）と、事前群（中間テスト結果とする）－事後群（事後テスト結果とする）間（表9）で $t$ 検定を施した結果、事前テストと中間テストの間で1%水準、中間テストと事後テストの間では5%水準で有意差が認められた。さらに、分野別（資質、職務知識、一般知識、マナー・接遇、技能）においてそれぞれに施した $t$ 検定結果においては、中間テストと事後テストの資質、技能以外の分野において有意差が認められた（表8、表9）。

以上により、A、B、CすべてのクラスにおいてSGEを実践した授業の効果は認められ、特に一番人数の多いAクラスの事後テストにおいて高い効果を生むことが示唆された。効果を生んだ理由としては、SGE実践における自己理解、他者理解の過程において、受講学生自らの思考が深まることで理解力が上がり、テスト結果の向上に結び付いたのではないかと考えられる。

### 5.3 アンケート結果の考察

ここでは、表10から表21のアンケート結果を比較しながら考察したい。

受講学生の主観的評価であるアンケート調査では、「授業の理解度」「授業に興味を持てたか」「配布資料の理解度」「授業への集中度」について、「よくできた－4ポイント」「できた－3ポイント」「できなかった－2ポイント」「まったくできなかった－1ポイント」として、「週あたりの学習時間」については、「2時間以上－4ポイント」「1時間以上2時間未満－3ポイント」「0.5時間以上1時間未満－2ポイント」「0.5時間未満－1ポイント」とカウントして数値化し、その平均値を表し、事前群－事後群間で $t$ 検定を施した結果、統計的な有意差は見られなかった（表10、表11）。しかしながらアンケート全体の結果として、「授業の理解度」における「よくできた」の値は、事前21→中間17→事後30と事後アンケートにおいて最も高かった。「配布資料の理解度」に関しても、事前20→中間28→事後33と事後アンケートにおいて最も高かった（表18）。

クラス別の結果については、全体のアンケート結果と同様に、AクラスとBクラスに統計的有意差は見られなかったが（表12、表13、表14、表

15, 表 17), C クラスの事前, 中間アンケート結果にのみ, 10%の有意差が見られた(表 16). また, A クラス結果の「よくできた」値について, 「授業の理解度」事前 10→中間 3→事後 13, 「授業に興味を持てたか」事前 8→中間 10→事後 12, 「配布資料の理解度」事前 9→中間 9→事後 16, 「授業への集中度」事前 5→中間 4→事後 6 と, 4 つの質問項目において, 事後値が最も高かった(表 19). B クラス結果の「よくできた」値については, 「授業の理解度」のみ, 事前 7→中間 7→事後 10 と, 事後値が最高であった(表 20). さらに, C クラス結果については, 「週あたりの学習時間」の「1 時間以上 2 時間未満」値が, 事前 1→中間 1→事後 4 と, 事後値が最高であった(表 21).

## 6. 結論

以上, 筆者が担当したビジネス実務教育科目において実施した授業内 SGE の効果を, テストという客観的評価および学生アンケートという主観的評価から測定した.

測定の結果, 学生アンケート(主観的評価)の結果からは, その効果を統計的に見ても明らかにすることはできなかったが, テスト(客観的評価)結果においては, その効果を統計的にも明らかにすることができ, 教育の質保証の可視化につながった.

ただし, この結果のみでは一般性までは示唆できない. 今後もこのような授業内でのアクティブ・ラーニングを積極的に実践し, より多くのデータを収集, 分析し, 結果を一般化させ, 今後の

SGE を用いた教育開発に貢献したいと考えている.

## 引用文献

- [1] 中央教育審議会. “新たな未来を築くための大学教育の質的変換に向けて～生涯学び続け, 主観的に考える力を育成する大学へ～”. [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/tou shin/\\_icsFiles/afildfile/2012/10/04/1325048\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/tou shin/_icsFiles/afildfile/2012/10/04/1325048_1.pdf), (参照 2020-3-3).
- [2] 日本ビジネス実務学会. “学生の学びを深める学習法の研究(2)～TBL(チーム基盤型学習法)を活用したビジネス実務教育における学習法～”. [http://www.jaucb.gr.jp/content/files/news/2014kenkyu uhoukoku\\_1.pdf](http://www.jaucb.gr.jp/content/files/news/2014kenkyu uhoukoku_1.pdf), (参照 2020-3-3).
- [3] 所吉彦. ビジネス実務教育における TBL 導入の試みーARCS 動機づけモデルに基づき TBL を導入した教育実践と評価ー. 尚絅大学研究紀要人文・社会科学編. 2016, (48), p.39-50.
- [4] 曾山和彦. <実践報告>構成的グループ・エンカウンターを取り入れた参加型授業に対する学生の意識と評価. 京都大学高等教育研究. 2008, (14), p.37-43.
- [5] 片岡優華ほか. <実践報告>大学生に対する構成的グループ・エンカウンターとピア・カウンセリングを用いた授業による学生の心理的变化. 創価大学看護学部紀要. 2017, 2(2016), p.23-32.
- [6] 金山元春ほか. 教員志望学生を対象とした構成的グループエンカウンター研修プログラムの開発と効果検証. 教育カウンセリング研究. 2018, 9(1), p.35-43.

(受付日: 2020 年 3 月 4 日, 受理日: 2020 年 3 月 31 日)

## 杉本 亜由美(すぎもと あゆみ)

現職: 金沢学院短期大学現代教養学科専任講師

成蹊大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学.  
専門は日本語教育, キャリア教育.